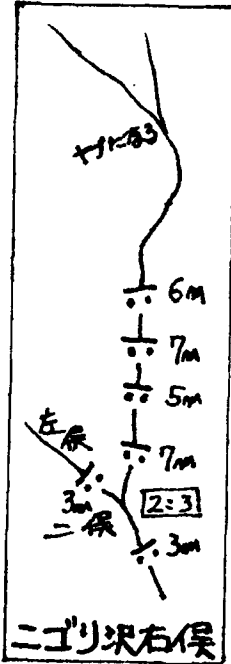


(記・宍戸幸務)



[タイム] ヨロイ沢出合(7:50)→橋(10:05, 10:15)→遊行終了(10:50)→橋(11:30)

1985年6月23日

ニゴリ沢右俣

L.

二俣までの記録は、会報No 23を参照してほしい。我々の今回の予定は、右俣に入ってすぐまた右に入り、流石山と大峠の中間部に入る沢に入る予定であったが、入口がわからず、右俣本流の遊行となってしまった。

右俣には最初のうち滝が少しあるだけで、あとは平凡な河原歩きとなり、そのあとはヤブこぎとなる。ヤブはとてもひどく、大峠直下へは突き上げられず、左の登山道へ逃げる破目となる。

イワナは1匹釣れただけであった。(記・

[タイム] ニゴリ沢出合(7:00)→二俣(8:50)→遊行終了(11:05)

加藤谷川左沢

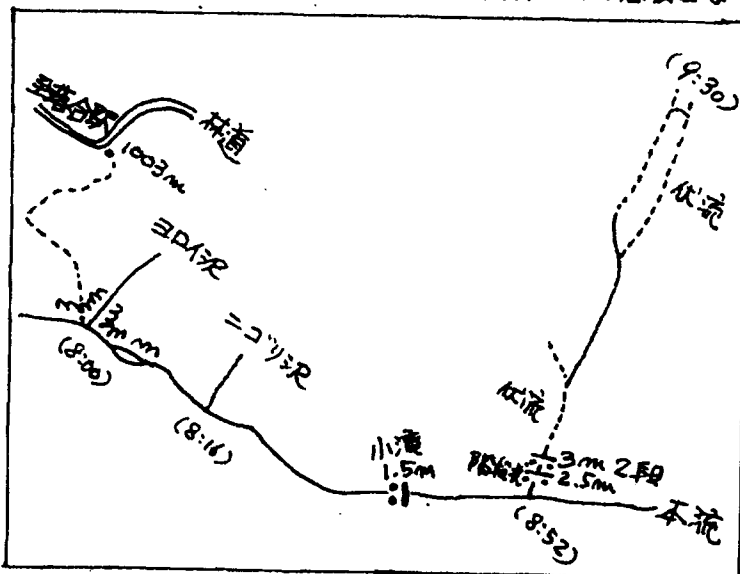
1985年8月24日

L.

林道1003m地点から作業道跡の踏跡を利用してヨロイ沢の出合に向かう。今では、釣人のための道となっている。最後の下りは、ヨロイ沢出合までの急坂となり、一気に下る。

ヨロイ沢出合から加藤谷川本流を遡る。ニゴリ沢出合まで10分。加藤谷川左沢出合までは約20分である。途中は河原歩きとなる。

8時50分、左沢の遊行を開始する。沢幅はせいぜい3~4mの枝沢で、コケむ



していて、多少すべりやすい。

すぐに2.5m程の階段状の滝が出てくる。滝として記録するのをためらう程度のものである。その上に3m2段の滝がある。その後、沢はすぐ伏流となり、しばらくして再び水が出てくるが、水量は少ない。

さらに進むと、沢は再び伏流となり、やがて沢の様相をもたなくなってしまう。その上部は尾根と尾根の間のくぼ地という感じで続くが、ヤブの中である。遡行を開始して40分程で遡行を打ち切り、下降する。

当初地図上から加藤谷川の左俣であろうと推測していたが、沢の様相、水量などからして、あまりにも貧弱なので、左沢として整理した。左沢遡行終了後に本流を30分程遡行し、地図と照らし合わせたが、目的の沢であることは間違いないと思われる。間違っていたとすれば、お許し願いたい。(記)

[タイム] ヨロイ沢出合(8:05)→ニゴリ沢出合(8:15)  
→左沢出合(8:40, 8:50)→遡行終了(9:30)  
→左沢出合(11:10)→ヨロイ沢出合(11:45)

1985年8月25日  
小玉沢 L

出合の砂防ダムを越えると、その先はゴルジュとなっている。これは先が期待できそうだと、身仕度もそこそこに出発。

ゴルジュの出口に15m程の高さの2個目の砂防ダムがあり、左岸を登って上に出ると、なんと水がない。えんえんと続く河原。石の上をあちらに飛び、こちらに飛びして、二俣へ。ここまで水が少し出たり、かれたりである。

二俣で小休止後、右俣に入る。しばらくすると、右岸にガレ場があり、そこから押し出してきた土砂で沢が埋まっている。ここまでは期待に反して全く平凡な沢であったが、この先は沢の様相がガラリと変り、結構水量もあるようになった。

